

令和8年度 第3回学校運営協議会 議事録

第3回：令和8年度 学校運営協議会（要点議事録）

日 時：令和8年 9月9日（水曜日） 14：30～15：30

場 所：西東京市立田無第二中学校 会議室

出席者：折田 和文（会長）、菅野 浩一郎委員、小山 真紀子委員、吾妻 隆一委員、
門前 俊夫委員、三沢 英俊委員、南川 広幸委員

欠席者：真鍋 五十鈴委員（副会長）、盛田 純子委員、山崎 英昭委員、
委員10名のうち7名出席により、本会議は成立

次第1 事務局より

司会：副校長

1 開会

副校長より開会挨拶。会議開始。

2 校長挨拶

- ・大雨予報に伴い、市内の小・中学校で臨時休校となったが、翌日から通常どおり教育活動を再開した。
- ・10月1日の合唱コンクールに向け、実行委員を中心に準備を進めている。
- ・昨年度好評だった職員合唱に加え、今年度は生徒有志による合唱を企画しており、教職員も参加する予定である。
- ・生徒が自ら発言し、企画・運営する活動を大切に、主体性や自己肯定感の育成につなげていきたい。
- ・1学期の学校評価について、アンケート結果の分析と今後の取組がまとまったため、委員から意見をいただきたい旨の説明があった。

次第2 協議会

司会：会長

1 第一回議事内容確認

- ・前回の議事録について、委員からいただいた修正・表記上の意見を反映したことが報告された。
- ・最終的な内容を確認し、問題があれば学校へ連絡することを確認した。

2 夏季休業中の学校の状況・不登校等について

- ・夏季休業中の事件・事故、不登校等の状況について報告があった。
- ・不登校については、「学校への登校」だけを目標とするのではなく、生徒が学校外も含めてどこかにつながっていることを重視している。
- ・家庭での学習、西東京市の支援機関、校内のグリーンスペース等、多様な学習・居場所の選択肢があることが説明された。
- ・不登校生徒の人数は増加傾向にあるが、夏季休業明けに急激に増えたという状況ではない。
- ・不登校については、年間30日以上欠席を一つの基準として捉えているが、学校ではその前段階から欠席状況を継続的に把握し、不登校傾向にある生徒を早期に把握するよう努めている。
- ・毎月、生徒の欠席状況を確認し、必要に応じて対応している。

3 1学期学校評価について

(1) 学校評価の概要

- ・学校評価は、生徒・保護者・教職員の3者を対象として実施している。
- ・学校経営の重点項目に基づき、各担当分掌がアンケート項目の設定、結果の分析、今後の取組の検討を行っている。
- ・アンケート結果については、回答人数や割合等も示し、3者の認識の違いが分かるようにしている。

(2) 学力・探究する力の育成

- ・基礎・基本を身に付け、それを活用して自ら学習を深める力の育成に取り組んでいる。
- ・教職員の肯定的な評価が高く、生徒も概ね肯定的である一方、保護者については「どちらともいえない」とする回答が比較的多かった。
- ・授業では、知識を受け取るだけでなく、自分の言葉で説明するなどの「アウトプット」を重視している。
- ・教職員は意識して取り組んでいるものの、その取組が保護者には十分伝わっていない可能性があるとの説明があった。

(3) 多様な意見を尊重する学び

- ・授業や話し合いを通して、自分と異なる意見や考え方を受け止めながら学ぶ事を重視している。
- ・生徒・保護者の肯定的な回答が多い一方、教職員の「どちらともいえない」という回答も一定数あった。
- ・今後、授業の中で多様な考えに触れ、互いの意見を尊重しながら学び合う場面をより明確に設定していく必要があるとの認識が示された。
- ・一方、教職員には地域学習とのつながりを十分実感させられていないとする回答もあり、今後の改善課題として捉えている。

(4) いじめの未然防止・人権教育

- ・他者理解や人権意識を高める教育活動を実施している。
- ・教職員からは肯定的な回答が多く、道徳等の授業において、登場人物の立場を考える活動などを通して他者理解を育んでいるとの説明があった。

(5) キャリア教育

- ・単なる高校進学ではなく、将来を見据え、自分の生き方や進路を考え、自己実現につなげることを重視している。
- ・キャリアパスポートを活用しているが、その意義や具体的な取組について、保護者への理解をさらに深める必要があるとの説明があった。

(6) ふるさと探究学習

- ・生徒については、地域の課題等について考えることを肯定的に捉えている割合が高かった。

(7) 学校行事・生徒会活動等

- ・学校行事や部活動を通して、仲間と協力しながら目標に向かって継続的に取り組む力を育成している。
- ・運動会等については、生徒の活躍の場を確保することを大切にしており、保護者からも肯定的に評価されている。

- ・生徒会活動では、生徒が自ら考え、企画・実行する活動を推進している。
- ・一方、教職員の回答には「どちらともいえない」もあり、生徒の主体的な活動をさらに充実させることが課題となった。

4 GIGAスクール・タブレット端末の活用について

- ・学校では、タブレット端末を活用し、生徒一人一人の学習状況に応じた問題に取り組むなど、個別最適な学習を進めている。
- ・特に、問題を間違えた場合に類題が出題されるなど、理解度に応じて学習を進められる利点について説明があった。
- ・一方、学校と保護者との間で、タブレットの具体的な活用状況について認識の差があることが学校評価から明らかになった。
- ・保護者からは、家庭でタブレットがどのように使われているのか把握しにくく、学習以外の用途に使用している可能性もあるため、アンケートに答えにくいという意見が出された。
- ・タブレットによる学習と紙・ノートによる学習にはそれぞれ利点があり、教科や学習内容に応じて使い分けているとの説明があった。
- ・今後、学校でどのようにタブレットを活用しているのか、保護者により分かりやすく伝える必要があるとの意見があった。
- ・保護者会や授業参観等の機会を活用し、実際の授業でのタブレット活用について説明・公開することが考えられるとの意見が出された。
- ・西東京市としても、タブレットを活用した学習を今後さらに進めていく方向であることが説明された。

5 学校評価の「分析」と「今後の取組」について

- ・委員から、学校評価について、単にアンケート結果を示すだけではなく、なぜそのような結果になったのかという分析を明確にすることが重要との意見があった。
- ・特に、生徒・保護者・教職員の回答に差がある場合、その理由を分析し、その分析を後期の具体的な取組につなげる必要があるとの指摘があった。
- ・「意図的・計画的に取り組む」などの抽象的な表現では、具体的に何を行うのかが分かりにくいため、取組内容をより具体的に記載することが望ましいとの意見が出された。
- ・学校側も指摘を受け止め、後期については、分析から具体的な改善策につながるよう、記述の仕方や取組内容を改善していく考えを示した。
- ・学校評価については、結果→分析→具体的な取組、という流れを明確にすることが今後の課題となった。

6 生徒・保護者への相談体制について

- ・生徒が困ったときに相談できる体制について意見交換を行った。
- ・学校では、夏季休業明けに相談週間を設定し、全生徒を対象として担任との二者面談を実施している。
- ・事前アンケート等も活用し、友人関係等の悩みや気になる状況を把握するよう努めている。
- ・教職員も日常の授業や学校生活の様子から生徒の変化を捉え、必要に応じて情報共有・対応している。
- ・委員からは、相談を自ら申し出ることが難しい生徒を学校側からどのように把握し、支援につなげるかが重要との意見があった。

- ・学校として、生徒の変化を早期に把握し、教職員間で共有して対応することの重要性を確認した。

7 次年度の学級編制・教員配置について

- ・次年度の新1年生は140人を超える見込みであり、学級編制によっては5学級となる予定であることが説明された。
- ・学級数の増加に伴い、教員が1名増員となる見込みである。
- ・現在、家庭科については講師による授業を行っており、正規教員が配置されていない状況が説明された。
- ・教員配置の安定性や生徒との継続的な関わりの観点から、増員される教員について家庭科の正規教員を配置するよう、西東京市に要望しているとの説明があった。

8 今後の予定・連絡事項

- ・10月の職場体験等について説明があった。
- ・次回の学校運営協議会は**1月25日（月）**に開催予定。
- ・今年度から、学校の働き方改革等を踏まえ、従来土曜日に実施していた作品展・授業公開の在り方を変更している。
- ・校内に展示される作品等について、可能な範囲で委員にも見ていただき、意見をいただきたいとの説明があった。
- ・校内の施設について、体育館の床改修、体育館のLED化、校舎内照明のLED化、トイレの改修等が進められていることが報告された。

9 協議を通して確認された主な事項

- 1.生徒の主体性を尊重し、生徒自身による企画・活動を今後も積極的に支援する。
- 2.不登校については、登校のみを目標とせず、生徒が学校内外の適切な支援や居場所につながることを重視する。
- 3.学校評価については、アンケート結果だけでなく、回答の背景や学校・家庭・生徒間の認識の差を分析し、具体的な改善策につなげる。
- 4.GIGAスクールについて、学校でのタブレット活用方法を保護者に分かりやすく伝え、学校と家庭との認識の差を縮める。
- 5.生徒が相談しやすい環境づくりと、教職員による早期発見・情報共有を継続する。
- 6.委員から出された意見を教職員間で共有し、後期の教育活動の改善に生かす。

10 次回開催

日時 令和9年1月25日（月）14時30分～

出欠についてはすぐーるに添付されているアンケートにより回答することを確認した。

